



心をひとつに：福井市連合音楽会

6月16日(火)
フェニックスプラザ大ホール

8番目に登場
四部合唱「花」

緊張を力に変え、実力を120%発揮

福井市連合音楽会を終えて

○千本 拓海（1組）

練習の時はしゃべっていたり、あまり歌わなかったりする人がいて本番が大丈夫か不安になりました。しかし、本番になると舞台の上の空気が変わり、みんなが一人ひとり自分の声をしっかり出して、とても楽しく歌うことができました。この気持ちを他のことでも活用して、みんなで協力して最後の1年をがんばろうと思いました。

○坪川 芽衣（1組）

私は連音の準備や発表を通して、仲間と協力する大切さを学びました。音程が分からないところは、友達や周りの人に聞いたり、場所が分からないときもみんなが優しく教えてくれたりしていて、良かったです。それぞれのパートごとにきれいな声で歌っていて、重なったときの歌声がとてもきれいでした。私はアルトを歌いました。ソプラノときれいにハモっていて良かったです。他の中学校の歌もきれいですごかったです。私は附属中学校の生徒が自分たちで歌をつくっていると聞き「すごい」と思いました。声が大きくてハモリもきれいでした。これから、学年でする行事がたくさんあるので、連音で学んだことを生かしていきたいです。

○高田 良（2組）

私は連音実行委員になって、この合唱に取り組みました。最初は小さかったみんなの声が、どんどん大きくなっていきました。前の立志の集いの時の歌と比べると、とても成長したので、とてもいい連音になったと感じました。ひとり一人がしっかりと声を出し、ソプラノ、アルト、テノール、バスの声が重なって、すごいいい合唱になって、良かったです。私はソプラノパートを歌い、少しでも声が大きくなるように努力しました。人数では負けていた学校がありましたが、がんばりは負けていないと思いました。私が鑑賞していて印象に残った学校は附

属中学校です。1曲目は生徒達で作上げたオリジナルの曲で、2曲目は数人の独唱からはじまりました。自分ならあんなにきれいな声は出ないし、大勢の前で歌う勇気もすごいなと思いました。この経験をこれからも生かしてがんばりたいです。

○梶永 咲空（2組）

連音の本番で自分は自分なりに大きな声を出して歌えたと思うし、本番ではちゃんと心を合わせて歌えたと思います。個人的には他の学校ですが、小学校の時の友達に会えたのがうれしかったです。1年生の時に世話になった林先生にも会えました。林先生の指揮姿は僕はとても覚えていて、久しぶりに見ることができ感動しました。もう一曲の灯明寺中学校の生徒の指揮は、林先生の指揮に似ていて、とてもうれしかったです。正直、吹奏楽部のコンクールもフェニックスプラザで行うので、その時の緊張感を思い出してしまい緊張してしまいました。音程を間違えたりしてちょっと怖かったけれど、最後までしっかりやり通せたと思います。楽しかったのもあるけれど、みんなで歌えてうれしかったです。

○山田 朝陽（3組）

僕は最初パートリーダーという役割で連音に向けて準備をしていました。だけど、最初の連音実行委員の集まりで、「指揮者がまだ決まっていない」と宮本先生から聞きました。みんなが「どうしよう」となっている中、僕は前から指揮に興味がありやってみたいと思っていたので、宮本先生に「僕やります。」と言い、パートリーダーから指揮者になりました。指揮は思っていたよりも難しく、腕の振り方や強弱のつけかたなど、ただ振っているように見える指揮でも、みんな工夫して指揮をしているんだなと思い、「僕もがんばらないと」という気持ちになって、日々練習をがんばっていました。全体練習では、学年全体をまとめることの難しさを知り先生達のすごさを改めて実感しました。でも連音に近づくにつれて、みんなのやる気が高まり、指揮をするのが楽しくなってきた覚えがあります。連音本番では、僕はめっちゃ緊張してたし、みんなも緊張してるのが表情でわかりました。だけど、今までの練習以上の声が出てると感じうれしかったです。連音でした経験をこれから先に活かしていけるようにがんばります。連音最高でした！！

○田中 優月（3組）

僕が連音で学んだ事は、他の学校の人も一生懸命やっているんだなと感じた事です。今までは、ずっとピアノの伴奏を担当していたこともあり、歌に集中する事がほぼなかったけれど、今回初めて歌ってみて、今までの自分と違う視点で見ることができました。僕は、歌う事はあまり得意ではなく、これまでに歌った時も、全部全力ではありませんでした。でも、今回、僕は、ピアノ伴奏ではないので、歌う事が大切だと気付きました。練習している時は、初めは声を出す事が面倒だったし、ふざけてしまった事もありました。ピアノ伴奏の時は、緊張しているのですが、ちゃんとしていたけれど、歌を歌うときは気が抜けてしまうことがたくさんあったので、次は、そこを直したいと思いました。でも、今回成長した事もあります。それは、立志の集いのことに繋がっているのですが、歌をしっかりと歌うようになったことです。僕のこの成長と、直したところをちゃんと実践すれば、もっと良い歌になると思うので直せるように意識します。小学校の連音の時より、周りの学校のレベルも上がっていたので自分も向上するように努力したいです。

○石丸 陽花梨（4組）

私は連合音楽会を通して仲間と協力する大切さを学びました。練習中は正しい音程を出せなかったり、1番と2番の歌詞がまざってしまったりしてしまいました。けれども、練習を重ねていく度に、正しく音程をとることができたと歌詞も覚えてきました。だから、連音の本番では最高のパフォーマンスが出来たと思います。他の学校もとても素晴らしいパフォーマンスでした。

○笠井 巧（4組）

花の歌の練習では、バスのパートで、とても低い音をとるのがとても難しくて、練習中も不安で、本番がうまくいくのかなと思っていました。しかし、本番の合わせは良くてとてもうれしかったです。指揮もわかりやすく、いい合唱ができ、以前の立志の集いの時より、もっといい合唱にすることが出来ました。そして、この合唱をこえられる合唱を卒業式で出来るように頑張っていきたいと思っています。ホールに社の花が咲きほこっていたと思います。すごく楽しかったです。美しいハーモニーだったと思います。

○清水 豊（5組）

今回の連音で学んだことは、一人一人が声を出すことが大切だということです。他の学校の歌を聞いて、全員が声を出していると迫力があるなと思いました。自分の学校は、今まで歌った中で一番上手く歌えていたと思います。練習では、バラバラになっていた所もあったけれど、本番では修正できていたと思います。練習でやったハモリも、うまくできていたと思います。この連音で協力したことを、これからも活かすことができたらいなと思います。

○飯田 りよ乃（5組）

連音の練習の時は、音程がとれずいまひとつで、全然うまく歌えませんでした。でもみんなで音の高さを「これぐらいじゃないか」と確かめながら歌ってみたり、試して歌ってみたりなど協力し合って練習してきました。そうしていると、だんだん音程も分かってきて、うまく歌えるようになりました。最初は、これで歌いきれるのか大丈夫か不安だったけれど、本番では、学年みんなで心を合わせて最後まで一生懸命歌いきることができました。とても楽しかったし、良い思い出になりました。みんなで協力し合って何かをすることは、良いことだなと思いました。歌う時は歌う、聞く時は静かに聞くというメリハリが大切だと思いました。

令和8年度 福井地区夏季総合競技大会

汗と情熱の記憶

6月18日～開幕

教室やステージとは違う顔。日々の厳しい練習で培った技術と精神力を、地区大会の舞台で存分に発揮しました。



結束の力：勝利へ向かう円陣



試合前の緊張感の中、仲間と肩を組み、心を一にする瞬間。
合唱で学んだ「協力」が、フィールドでも活かされています。

